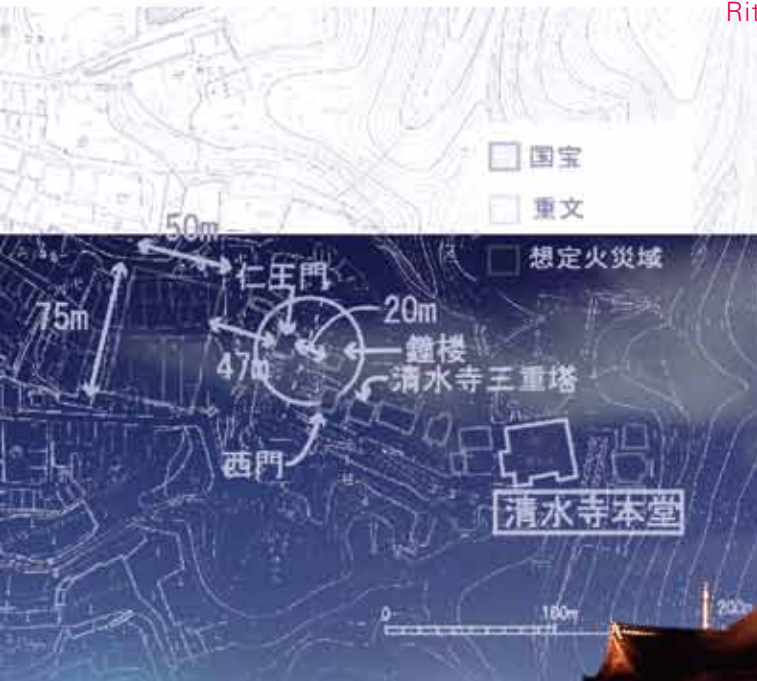




立命館大学 歴史都市防災研究センター

# Rits-DMUCH

Research Center for  
Disaster Mitigation of Urban Cultural Heritage,  
Ritsumeikan University



## センターの目指すもの

わが国は長年にわたって、宮々として文化財の保護に当たってきましたが、地震や洪水のような自然災害に対する対策は十分ではありませんでした。一方、自然災害に対する研究や技術開発は活発に行われてきたものの、文化財や歴史遺産をかけがえのない特別なものとして扱う視点は欠けていました。

このようなエアポケットとも言うべき分野の学理と技術開発を行い、それに基づく対策を実施しなければ、文化遺産を安全に後世に引き継ぐという責務を果たせません。文化遺産をめぐる社会の環境は20世紀において激変しており、災害に対する安全性の低下は、それ以前の時代に比較して著しいものがあります。また、日本の文化遺産は世界の人々と共有していることも忘れてはなりません。

大規模な地震や洪水の発生が懸念される折から、文化遺産を守るための対策を早急に構築しなければなりません。このためには、文化遺産防災に関わる技術開発と学問体系の構築が必要です。これらを推進するために、当センターは、グローバルCOEプログラム「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」などのプロジェクトを支援するとともに、UNESCOなどの国際機関とも連携して、世界の文化遺産を災害から保全するための研究・教育拠点の形成を目指しています。

センター長 土岐 憲三

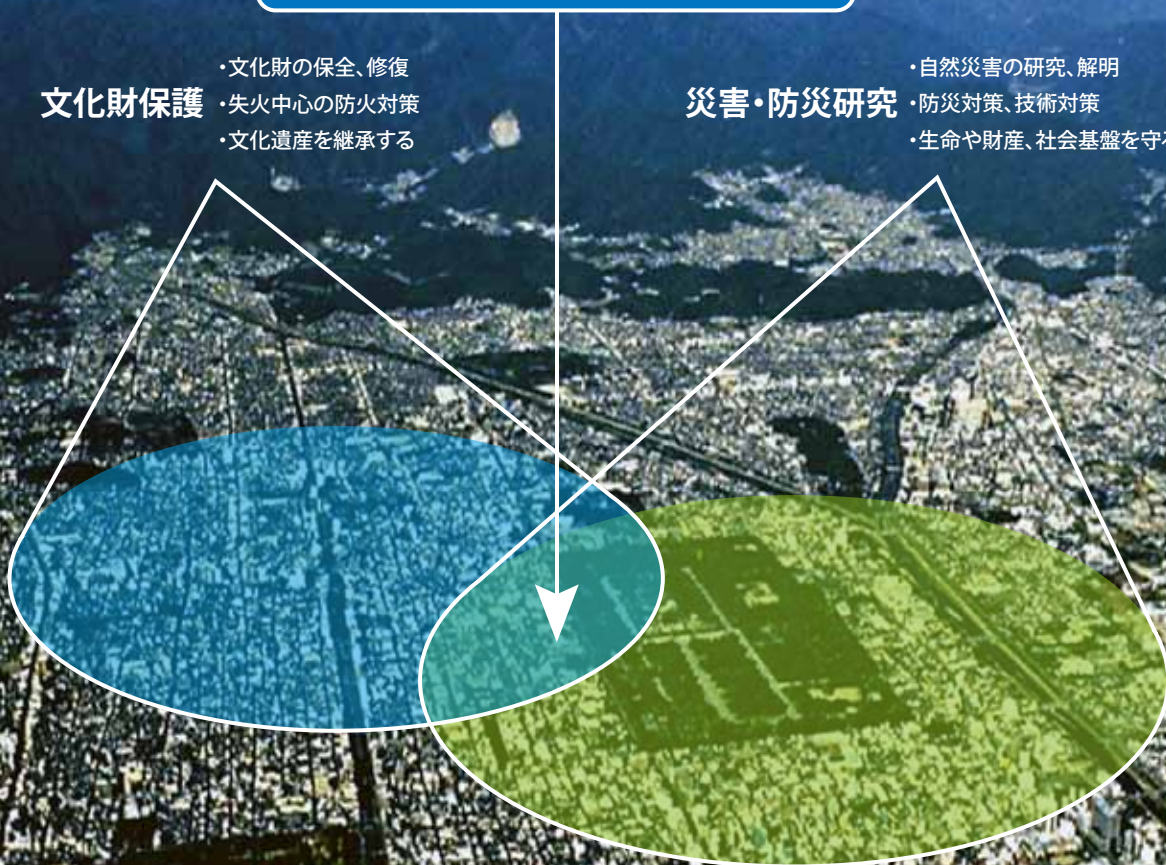
## 歴史都市防災研究

### 文化財保護

- ・文化財の保全、修復
- ・失火中心の防火対策
- ・文化遺産を継承する

### 災害・防災研究

- ・自然災害の研究、解明
- ・防災対策、技術対策
- ・生命や財産、社会基盤を守る



## センターの役割

本センターの目的は、文化遺産を有する歴史都市を災害から保全し、それを後世に継承するための学理と技術を確認することです。今日に至るまで、文化遺産や歴史都市の防災に関する学術研究の体系は未整理のままであり、災害科学、土木工学、建築学、情報学、人文社会科学などが連携して体系を構築する必要があります。

立命館大学には既にアトリサーチセンターが設けられており、これと歴史都市防災研究センターとが連携して活動することにより、文化遺産の宝庫とも言うべき京都に、芸術と文化を一体の物として捉える教育・研究拠点が形成されます。すなわち、人文・社会科学と工学との融合した新しい学問分野の創設の一翼を担うことも当センターの役割であります。2006年10月には、ユネスコにより当センターにUNESCO Chair が設置され、文化遺産の防災に関わる国際的研修事業を推進するとともに国際的情報ネットワークのハブの役割を果たしています。

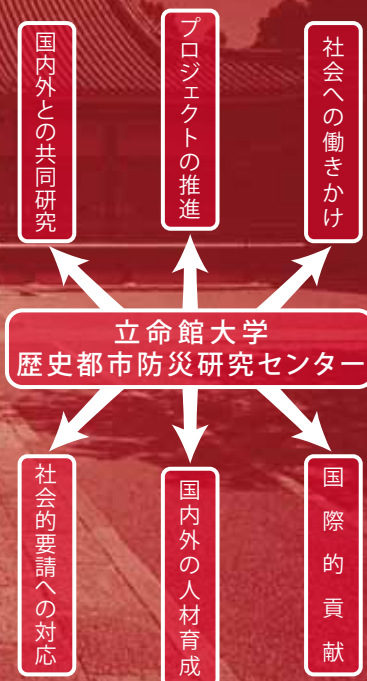
文化財や文化遺産の集合体としての歴史都市の防災に関する分野の研究者が協力して、総合的な視点から研究しなければ、技術開発や研究成果を施策へ反映することはできません。こうした広い分野の研究者が連携するためには、それを可能にする場が必要です。当センターはこのような共同研究の場を日本あるいは世界の研究者に提供することも目的の一つとしており、多くの研究者に集まって頂き、文化遺産を災害から守るための英知を寄せ合う場になることを願っています。

### かけがえのない文化遺産と歴史都市を災害から守り それを後世に継承するための学理と技術の確立をめざす「場」

#### ■センターの構成



#### ■センターの活動

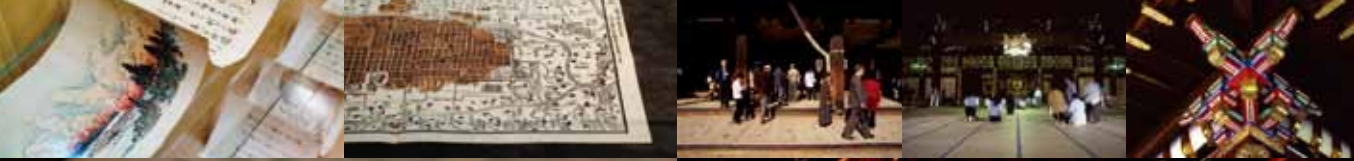


## 研究領域

- ◆文化遺産の災害史
  - ・京都における火災による文化財の焼失
  - ・京都盆地の地震来歴の調査
  - ・歴史的建造物の復元と建造物の立地
  - ・文化遺産の価値及び災害と復旧の歴史
- ◆文化遺産の災害危険度
  - ・歴史的建造物の耐震性の向上
  - ・美術工芸品の免震
  - ・市街地の延焼対策
  - ・歴史遺産集積地の都市構造と防災性能
- ◆文化遺産の保全
  - ・内陸活断層による京都盆地の震動予測
  - ・歴史遺産と市街地の一体的整備方策の提示
  - ・災害時における文化遺産保全のための交通管理
  - ・歴史的空間の景観の保全と防災対策
  - ・文化遺産の防災・復旧・整備の対策と制度
  - ・文化遺産の災害と保護制度の国際比較

## センターの機能

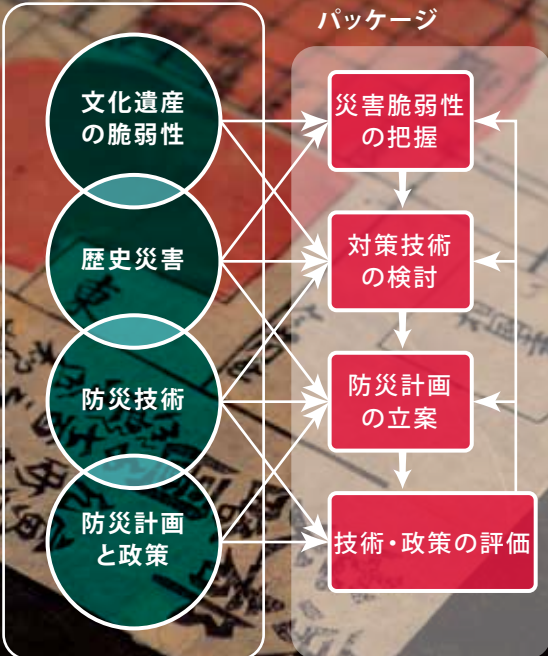
- ◆研究の企画・推進
  - ・学術研究
  - ・受託研究
- ◆教育活動
  - ・国内研修
  - ・国際研修
- ◆啓発活動
  - ・展示
  - ・セミナー
  - ・機関誌など
- ◆学会・シンポジウムの開催
- ◆史資料の収集・保管
  - ・資料室
  - ・貴重品保管庫
- ◆その他関連事項



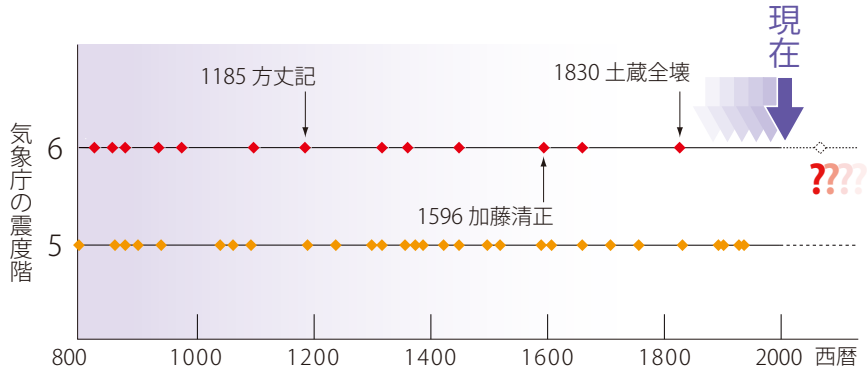
### ■文化遺産防災学の枠組み

#### 4つの研究プロジェクト

#### 文化遺産災害対策パッケージ



# 京都の地震来歴



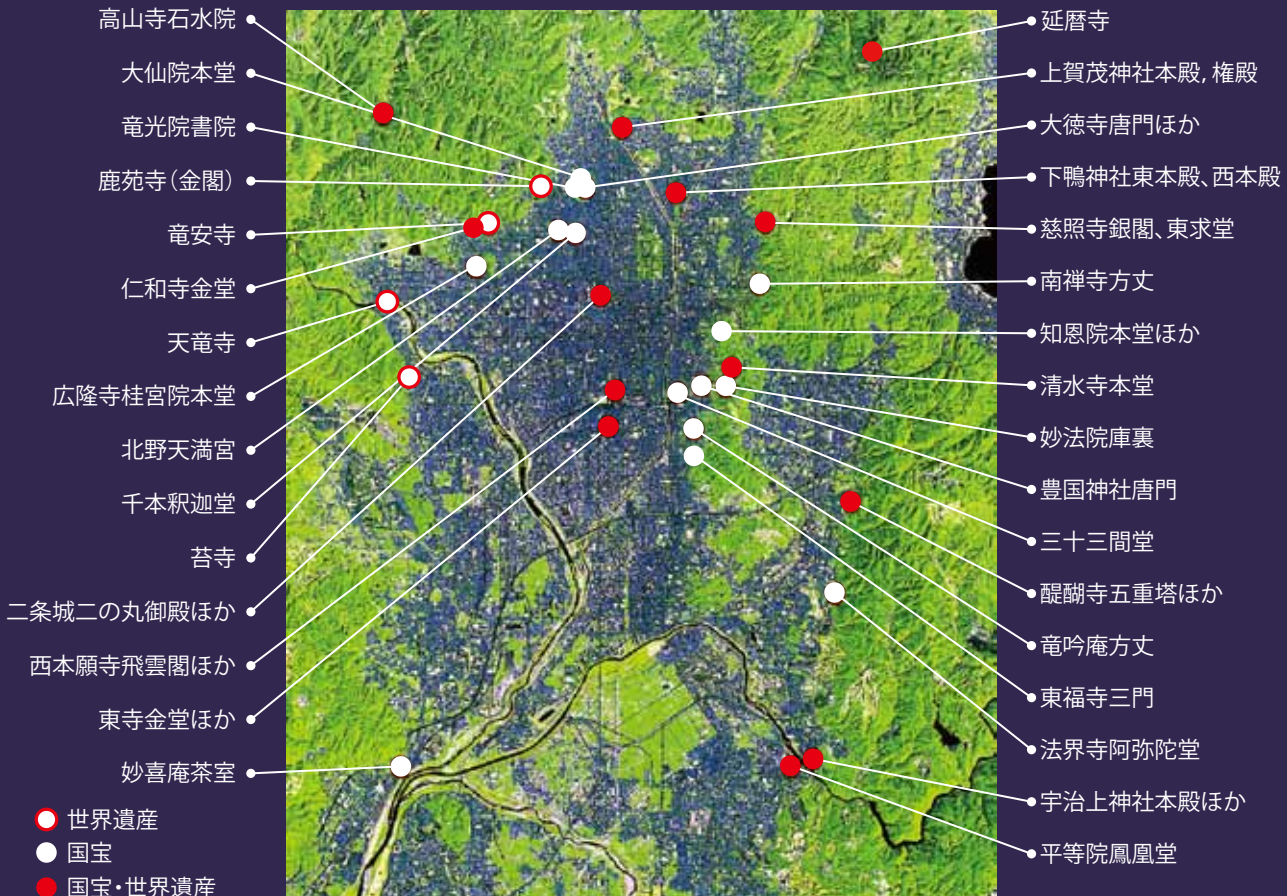
この図は西暦800年ごろから、京都で震度が5と6であった地震を記したものです。震度6以上の大きな被害をもたらす地震は1830年以来起きていません。このことは逆に、次の地震が近づいていることを示唆しています。



集積する文化遺産 × 高い木造家屋率 × 自然災害に無力な既存防災設備 × 地震活動期にある京都・・・



# 京都の国宝木造建造物と世界遺産





## 立命館大学 歴史都市防災研究センター

沿革 ◇2003年 8月 1日 設立

◇2006年 3月13日 衣笠キャンパスにセンター竣工

組織 ◇センター長

土岐 憲三 (立命館グローバル・イノベーション研究機構教授  
地震工学・文化財防災学)

◇副センター長

吉越 昭久 (文学部教授 歴史地理学)



### 立命館大学 歴史都市防災研究センター

〒603-8341 京都市北区小松原北町58番地

TEL: 075-467-8801 FAX: 075-467-8825

<http://www.rits-dmuch.jp/>

<http://www.ritsumei.ac.jp/se/rv/bousai/>

- JR・近鉄 京都駅より: ◎市バス50・快速205「立命館大学前」下車 約35分  
◎市バス205「衣笠校前」下車 約35分、さらに西へ徒歩10分  
◎JRバス立命館大学經由周山行き「立命館大学前」下車 約30分
- JR(嵯峨野線) 円町駅より: ◎市バス快速202・快速205「立命館大学前」下車 約10分  
◎市バス205「衣笠校前」下車 約10分、さらに西へ徒歩10分  
◎JRバス立命館大学經由周山行き「立命館大学前」下車 約10分
- 阪急電鉄 西院駅より: ◎市バス快速202・快速205「立命館大学前」下車 約20分  
◎市バス205「衣笠校前」下車 約20分、さらに西へ徒歩10分
- 阪急電鉄 河原町駅(四条河原町)より: ◎市バス12・51「衣笠校前」下車 約40分
- 京阪電鉄 三条駅より: ◎市バス15・59「立命館大学前」下車 約30分
- 京福電鉄(北野線) 等持院駅より :◎北東へ徒歩約10分